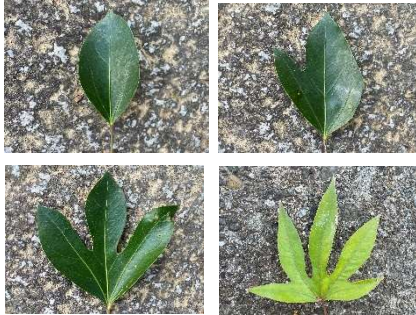


風土記の丘の花だより³⁰⁶

今、そしてこれから見られる植物(2026年1月31日)

寒い地域は大雪で大変な事になっているようですが、このあたりでは、幸いなことにまだ積雪はありません。とはいえ、まだまだ寒い日が続きそうです。風土記の山も冬景色、花を探すのも一苦労です。今回も相も変わらず、華やかさに欠ける紙面になってしまいそうです。



4枚の葉の写真を載せました。普通の葉の形、2つに分かれたもの、3つのもの、5つのものと形は違いますが、これは全部同じ木の葉です。その木の名前はカクレミノ。園内ではごく普通に見られる常緑樹ですが、葉を見るととても興味深いです。この木は、成長段階などによって葉の形が異なります。幼木では幾つにも分かれていますが、老木になると、切れ込みのない普通の葉の形になります。でも、まだ4つに分かれた葉を見たことがありません。



アオキの実が赤く色づき始めています。まだ緑色の実もこれから赤く熟していくことでしょう。葉がつやつやとした緑色なので、「青木」と名付けられています。緑なのに青？と思われるでしょうが、古代では、色を表す言葉は赤・黒・白・青の4つだったと言われています。青は青紫から緑、灰色までも含んでいたそうです。色の表現が細分化されたのは、染色が発達したことによるそうです。アオキは雌雄異株で、こんな実ができるのは雌株です。この写真は旧谷山家住宅の庭で撮りました。



くすんだ柿色の丸い実が付いたつるが、木に巻き付いています。これはヘクソカズラの実です。どこにでも生えて、あちこち巻き付くので厄介な雑草ですが、花も実もどちらも愛嬌があって可愛いものです。花の写真は去年の8月のものです。「ヘクソカズラも花盛り」は前にも紹介しましたが、この実にも何か良い言い回しがないのでしょうか



梅園に梅の咲き具合を見に行くと、足下にもうヒメオドリコソウの花が咲いていました。日当たりが良いので暖かく、春が待ちきれなかったのでしょうか。この草は早春の草花として日本の風土にすっかり溶け込んでいますが、ヨーロッパなどからの外来植物です。上の方の葉が少し赤みがかかるので、群生すると赤いカーペットみたいな眺めです。寒いですが、少しずつ春の草花も咲き始めていますね。でも、まだまだ寒い！ 風邪など、召しませんように。松下